

ICT を活用した 自立活動の指導

タイトル

伝わる経験を通しコミュニケーション意欲を育むための自立活動の指導
～音声言語での表出に焦点をあてた実践例～

学習形態

個別指導

対象障害

視覚障害 聴覚障害 肢体不自由 知的障害 病弱・身体虚弱
言語障害 自閉症 情緒障害 学習障害 注意欠陥多動性障害
その他

生徒の実態

- ・発達段階は5歳頃。聞こえにくさと構音の不明瞭さを自覚し、指導を前向きに受け止め体現しようとする事ができる。
- ・音声で伝わらない時はサインや身振り等も活用して伝えようとする時もあるが、伝えきれずに諦めたりすることがある。

自立活動の課題 ICT の効果

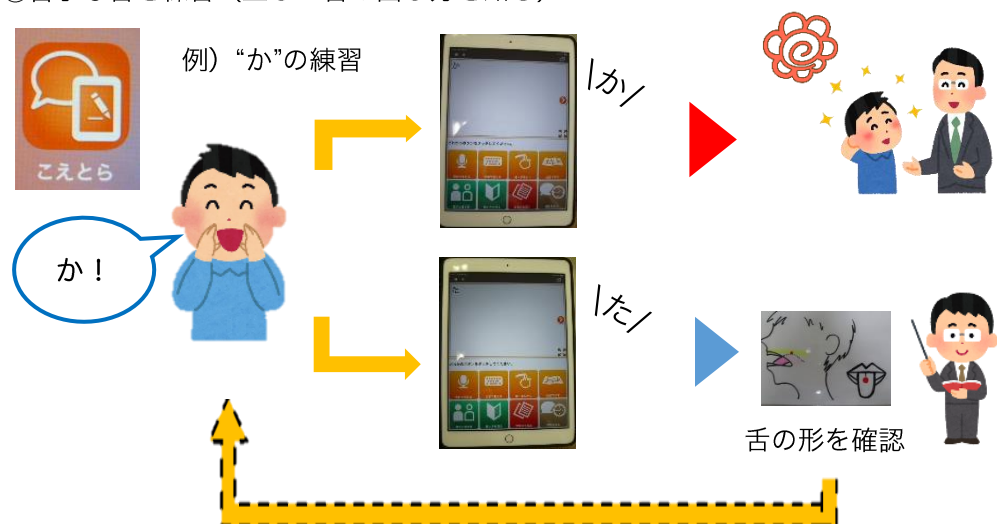
- ・音声文字変換機能のあるアプリを活用し、自身の発した音声を視覚化することで、耳からのフィードバックのしづらさを補い、構音運動の修正や改善に繋げる。
- ・単語の音の並び替えアプリを活用し、音韻意識の向上を図る。

活用した ICT 機器 アプリケーション 教材・コンテンツ等

iPad (使用アプリケーション：こえとら、ひらがなめっちゃわかるもん)

自立活動の指導

①苦手な音を練習 (正しい音の出し方を知る)

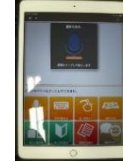


- ②練習した音を含む単語の、音の構成順序、音の出し方の違いを確認



か・・・め

- ③練習した音を含む単語で確認



かめ

生徒の様子・変容 ICT の効果

- ・指導者の違いに左右されない一定の基準での客観的な評価ができた。
- ・音によって舌の形が変わることを知り、伝わりにくい際は舌の形を意識して伝えようとするようになった。

ICT 活用のポイント

- ・音声の代替手段（絵カードコミュニケーション等）の獲得と活用も同時並行して取り組む。
- ・発達年齢、障害種によって上記の取り組みが適さない場合があるため、専門職（ST等）と連携し助言を仰ぐ。